

令和2年度 市政懇談会 1日目（要約）

- ・ 日 時 令和2年11月5日（木）19時00分～21時30分
- ・ 場 所 さぬき市寒川庁舎 3階 301・302 会議室
- ・ 出席者 市長、副市長、教育長
市民部長、生活環境課長（司会）、生活環境課担当
市連合自治会 鶴羽・富田・松尾・石田・神前・長尾・前山・多和支会長
一般参加 8名
- ・ 議 題 (1)市政報告
(2)連合自治会各支会から市政への提案・意見等について
- ・ 議事内容 以下のとおり。

開会にあたり、市長の挨拶。

続いて、市長より市政報告があった。

市政報告後、連合自治会支会より自治会の市政への提案・意見等について、市長に対し質問し回答を得ることとした。

長尾支会、神前支会、富田支会、松尾支会、前山支会、多和支会、鶴羽支会の順に1問1答による質問等を行った。

各支会の提案・質問等

●長尾支会の提案・質問

「コミュニティバスについて、高齢者の利用が多いので土日料金を平日料金と同額にして欲しい。」

「ゴミ収集について、夏季はペットボトルが多く出されるので、夏季だけでも入れる容器を増やして貰えないか。」

●市長の回答

コミュニティバスは年間4,000万円程度の費用がかかっている。

路線、停留所の位置の見直しを今後も行っていくので、そこで結論を出したい。

ゴミは夏場に飲料消費が増えると思われるが、実態を収集業者と意見交換の上、検討したい。

●神前支会の提案・質問

「神前小学校も閉校し、若い人が少なくなり高齢者が多くなっている。活性化策を聞かせて欲しい。」

●市長の回答

神前支会は地域活動が活発であることは認識している。

神前小学校は、JR 神前駅前に位置し、かつては外国の大学に進学するための場所や、地元の製菓企業が何か出来ないかとの話もあった。

公共交通機関が近くにあることで地理的優位性がありこれからも色々な可能性があると思われる。

若い年齢層と一緒に知恵を絞り、持続可能で一時的ではない繋がりのある場所としたいと考えており、地域での意見交換の際には具体的な話を

聞きたい。

●富田支会の提案・質問

「コミュニティバスの運行に代わる助成について」、
「市内の県立高校の統合に関する市の考えについて」、
「市民サービスの向上対策として、大川出張所、社会福祉協議会、番組制作がそれぞれ別の建物に入っており維持管理等で一箇所の施設で実施することが出来ないか」
「ゴミステーションの設置費用への助成金」の要請

●市長の回答

コミュニティバスはAIのシステム、運行の費用により試行段階で終わっている。三豊市は社協が代行しているとか、デイサービスの運送代行の方法等を検討しているが、なかなか最良の案が無い。
さぬき市のように南北に長い地域では困難だが、循環する方法が採用できればと考える。担当課で検討している最中である。
県立高校の件については、東讃地区の県立高校を検討する場があり、4校を2校にする考えが県にあったが、その方法を十分に検討して貰いたいと意見を述べた。
県の考え方は令和9年度に統合校を開校する、今年度中には具体的な学校のあり方を決める、令和3年度中に統合校の場所を決める、とのことである。
私は関係する高校出身であるが、母校の関係で動くことはしない。
3校同窓会が育てる会を結成し、一体となって当面、現状のままでいけばどうかとのことであるが、キャンパス方式を採用するという動きのようであるが、3校に必要な用地を購入する等、今決定することは令和9年の時点では更に生徒が減っている可能性が考えられる。
さぬき市民は全員、県民であるので色々な意見を聞く必要があるのではないかと県知事には申し上げている。
拙速に物事を決める必要はないのではないかと思います。
大川地区では市の出張所、社協の支所、ケーブルテレビがそれぞれの建物のなかで業務を行っている。
確かに、一つの建物で業務を行うという意見は検討に値する。
しかし、一つにして良いものと別れて良いもの、コロナ禍の情勢のなかでは色々あると考える。
組織を移動すると必要ではないコストが発生することにもなるので俯瞰的にさぬき市の建物を計画することとしたい。

●松尾支会の提案・質問

「農地の耕作放棄地について今後の対策をどのように考えているのか。
山間部では農地の山林化が進み、市に土地を寄付したい人が多くみられる。」

「林道で松尾地区では竹などが通行に支障となるほど伸びている場合があるので、伐採を実施して貰いたい。」の要望

●市長の回答

「農業・漁業・林業といった第一次産業を軽視する風潮にある。農業がこのまま外国に依存するままの状態が良いのか。耕作放棄地になったのは理由がある。どうすれば持続可能な農業になるか考える必要がある。若い方で鴨部・鴨庄地区にグループがあり、新しいものを創りたいと、全額補助は困難であるが、今、農業従事者は平均で高齢であり 10 年後には誰も営農する方はいなくなる。農業は、若い方の力を借りつつ試験的に来年度予算でも挑戦したい。耕作放棄地で中山間地域では国も施設の整備を行っているが、肝心な担い手が確保出来ないままになってはいけないので、活性化するように努力したい。」

●前山支会の提案・質問

「避難場所が災害指定となっている。将来的に前山活性化センターに戻るのか。」
「葛野地区に市道（叶谷線）の修繕を定期的に行って欲しい。工事用車両が通行するため、舗装が割れている箇所がみられる。」
「市道の側溝や横断溝に堆積した土砂の除去を定期的の実施して欲しい。生活道としては叶谷線しかない。」
「山間部であり、サル、猪が多く発生する。その対策について。個人負担で柵を設置するのは困難で事業を活用できるのか。」
「県道志度山川線では年に 1 度草刈りをして貰っているが回数が不足だ。集落への部分について草刈りをお願いしたい。
また、場所によっては所有者不明で地元では対応が困難である。」

●市長の回答

避難場所については、前山分館であったが施設の一部が土砂災害地域のため、この際、土砂災害地域ではない場所を再選定した。土砂の流れ等から「おへんろ交流サロン」とした。
「おへんろ交流サロン」を充実するものとして前山小学校を活用できないか県と協議中である。
長期的に「おへんろ交流サロン」を避難所にする必要がある場合は、施設整備を行っていきたい。
市道の側溝については、当市職員が現地を確認していないのであれば、実際、現地に赴いて地元の方と立会の上で対応させて頂きたい。
猪、サルの対策は個体の駆除が一つの方法である。
猪は毎年多く捕獲している。過去は、材料の提供をしていたが、現在もその事業が継続しているか、確認し地元伝えたい。

サルはボスザルを捕獲すると逆に被害が拡大するので、一網打尽にする。
県が学者に依頼し実態調査をしている。

猪、サルについて今の制度を調べ、地元伝えさせて頂く。

草刈りについては、頻度を増やして欲しいとの要望を聞いている。

地元で草刈りを実施する場合に助成をする制度もある。

ただ、所有者が不明な状態で草刈りを実施することは困難であるのは理解するので、具体的な場所等について確認したい。

●多和支会の提案・質問

「長尾公民館の進捗状況について。

早急に窓口の広い長尾公民館の建設を希望する。利便性の良いものとして貰いたい。商工会が入る話も聞いている。」

●市長の回答

公民館は志度、長尾を並行して整備をしている。今年度に基本設計、来年度に実施設計のスケジュールである。

基本設計の段階で、利用者の意見交換をしている。

教育委員会生涯学習課が担当し、設計業者が決定したところである。

学校、公民館は優先して整備を進めたい。

何年程度整備に必要であるということが判明すれば関係者からも理解を頂けると思っている。

関係者から意見を伺うということで説明としたい。

可能なものは出来るだけ早く実施したい。

商工会も事務所がかなり老朽化しており、今の時代に自前で大きいものを建築するのはどうかとの意見があるので、市の公民館でその一角を利用できないかとの意見がある。

出来ることをすれば共助、公助の点が減り、今まで出来なかったものをする事ができるのではないかな。

●石田支会の提案・質問

「東讃地区の産科が無い状態であり、市民病院が産科医療を担う必要があるのではないかな。」

●市長の回答

市民病院は昨年の8月から医師の確保が困難であり、お産の対応を休止していた。四国新聞の記事（10月21日）に掲載され、以前のような出産が出来ると誤解される方もいるかと思うが、今の出産は産科医、小児科医、内科医がチームを組んで対応しないと、通常分娩は対応できるが、異常分娩の場合対応ができない。

今回、産科医を1名確保できたところである。

通常分娩であれば市民病院で行うことができる。新聞記事では来年1月からとなっているが、より詳しいことはもう少し先には判明すると思う。

●鶴羽支会の提案・質問

「市にも経営感覚が必要である。

市民病院の長尾街道沿いに面した駐車場は満車になっていることが無いので、有効利用するのはどうか。ゴミ袋に広告を入れてはどうか。」

「さぬき市は人口流出が進んでおり活性化には程遠い。

現在は国際化で英語が中心である。

そこで、市の主たる標識等表示、パンフレットを多言語表示とするのはどうか。」

「さぬき市は通過地点となっているので、イベントの回数を増やし、グルメによる魅力ある物産品を作りだすようにしてはどうか

(若い方向けにグルメを作らないとリピーターが増えない)。

さぬき市独自のものを作り出す必要があるのではないか。」

「元気な高齢者が元気な街をつくるという観点から、民間で働いていたシニア人材を有効に活かすことが必要である。」

「若い人のアイデアを募集し意見を活かしてはどうか。」

「スクールバスの利用を登下校のみならず、校外学習にも活用してはどうか(さぬき市にいい場所があるということを示すことで流出を防止する面がある、市を見直して欲しい。)」

「A L Tに最近の英語をチェックして貰うのはどうか

(文法英語ではない生きた英語を学ぶ必要がある。)」

●市長の回答

市の収入、税金のみに頼る、地方交付税に頼ると最低限のことしか出来ず、新しいこと、政策的なことはできなくなる。

封筒に広告は入れているが、ゴミ袋にはまだ入れられていない。

英語が国際公用語になっているが、母国語以外に最低一つの外国語の理解をすることが必要であること、I Tの推進をすすめることがこれから求められてくるのではないか。

来年度に地方公共団体のマイナンバーカードの普及率の向上に対し、推進の強化となるのではないか。

ちなみに、当市のマイナンバーカードの普及率は現在、17%である。普及率の低いところは補助金の交付が削減される可能性があるのではないかと思う。

また、バランスシートが分かる人材を増やすことが必要である。

英語の学習でさぬき市もA L Tを活用している。

英語が出来る方は結構いるので、その方を活用することも必要である。英語教育は受験英語ではなく利用できる英語を学ぶ機会ができる場を設ければよいと考えている。

かつて、さぬき市は「大結願」のお菓子を出したが、製造中止となっている。それ以降、お菓子について検討しているがなかなか進展し

ていないので、良い意見があったら提案をお願いします。

シニア人材については、これからは長寿の時代になると考える。

還暦は人生の後半の始まりである。シニアも活躍できる場を創りたい。

若い人のアイデアは必要であると考えている。

若い人の発想が重要であるので、来年度、市も役所の意識に染まっていない職員を何人か集めて意見を集約し、市内の若者、市外の若者の意見を聞くきっかけとしたい。

例えば、ファクトリーパークに、代表者が非常にユニークな方である法人がある。

その法人とも協力できれば若手の視野を広げる機会を構築したい。

種々な意見の提案があったので受け止めさせて頂き、何か実現に繋げたいと思う。

なお、英語については教育長の回答をお願いします。

●教育長の回答

昨年度から小学校にも英語を導入している。

指導者については、日本人であって外国に行った経験のある方を支援員としてお願いしている。

外国の方で来日者にALTをお願いしている。

中学校の教師にも小学校で指導して頂いている。

韓国では英語でコミュニケーションができる英語を教育している。

我々も日常生活でどこまで英語を取り入れることができるか、取り組んでいるところである。

バスの件では、今年度は県内に修学旅行で小豆島や四国カルスト等に行ったが実際に行ったことがある児童は少ないものであった。

地元にも良いところがあるので、学習のなかに取り入れたいと思う。

●市長の回答

さぬき市は、450名の外国人がいるのでうまく活用する方法を検討したい。

さぬき市は自治会加入率が74%である。

自治会への加入率は程々であるが、未加入者の方も結構いる。

自治会に加入すると、良い面があるということを示すことができ、活躍できる場を創りたい。

以上、支会からの提案・質問を受けた。

その後、一般参加者の提案・質問の発言を確認した。

●多和支会から追加の提案・質問

「市民病院の患者の救急受け入れについて（なかなか市民病院に受け入れして頂け無いので他病院に行ったとの意見があった。）」
応急処置が出来るのであれば市民病院の応需を増やすような努力もお願いすると、追加要望。

●市長の回答

救急の応需率は、現在7割である。

病院であるのに何故、応需しないのかとのことであるが、日中と夜間で内容が異なり、医師の確保が困難である面がある。

心臓や脳梗塞は時間との闘いである。いつも脳外科医が常駐していれば応需できるが、現状は違うので無理な面がある。

応需率が良くないのは開設者である市長が医師を確保すべきとの話もあるが・・・。

日中の医師を確保し、そこで応需率を高くし夜間にも繋げられたら良いとは思うが、病院事業管理者との協力が必要である。
応需率の割合を高くすることと、利用者に信頼を得られる病院でないとこれからはいけないと考えている。

市民からの叱咤激励としての声を病院事業管理者に伝え、応需率の向上に繋げればと思う。

以上、全体の質疑を終え、副市長より閉会の挨拶があり終了した。